

文部科学省 令和5年度
家庭教育の総合的推進に関する調査研究
（「民間による家庭教育支援事業」）

報告書



令和6年3月

目次

第1章 事業概要	1
1. 事業背景・事業目的	1
1) 事業背景	1
2) 事業目的	2
2. 本報告書の位置づけ	3
3. スケジュール	3
第2章 事業報告	4
1. 自治体における家庭教育支援チーム登録の促進事例に関する調査	4
1) ヒアリング概要	4
2) 初期仮説の設定・ヒアリング項目の設定	6
3) 調査結果・分析	8
4) ポイント集の作成	12
2. 家庭教育支援ポータルサイトの更改	13
1) 事業概要・目的	13
2) ポータルサイトの更改方針	14
3) ポータルサイトの更改内容	15
4) 継続的な改善に向けた検討	22
第3章 事業の評価	37
1. 自治体における家庭教育支援チーム登録の促進事例に関する調査	37
2. 家庭教育支援ポータルサイトの更改	37
第4章 総括	38
1. 「家庭教育支援チーム」の登録制度広報について	38
1) 基礎自治体向け広報について	38
2) 民間団体向け広報について	39
2. 行政連携・チーム間連携について	39

第1章 事業概要

1. 事業背景・事業目的

1) 事業背景

近年の家庭環境の多様化に伴い、子育てについての不安や孤立を感じる家庭が増加するなど家庭教育を行う上での課題も指摘されており、地域全体で家庭教育を支える仕組みづくりが一層求められている。

教育再生実行会議第十次提言（平成29年6月）では、国、地方公共団体は、「地域における総合的な家庭教育支援の推進に向けた子育て支援との連携」として、関係機関・関係者の間での支援が必要な子供や家庭に関する情報の共有化や協働の促進を図ることが提言されている。

全国では1,031（令和5年3月現在）の家庭教育支援チームが活動するなど、地方公共団体を中心とする保護者への支援体制が整備されつつある。

弊社が昨年度実施した令和4年度「家庭教育の総合的推進に関する調査研究（民間による家庭教育支援）」におけるヒアリング調査も踏まえ、家庭教育支援チームの組成に関する2つのパターンを整理した。

パターン1. 行政主導による家庭教育支援チームの組成

概要：行政が主導となり地域のキーパーソンを集め、家庭教育支援の組織作りや仕組みづくりから行うことにより家庭教育支援チームを組成するパターン。新規に組織作りや仕組みづくりを行う必要があり行政側の負担が大きい。

パターン2. 既存の民間団体による家庭教育支援チームの登録

概要：地域において既に家庭教育支援に類する活動を行っているNPO等の民間団体が、家庭教育支援チームとして登録するパターン。既存の民間団体の活動を家庭教育支援チームとしてオーソライズしていくことから、新規の組織作りや仕組みづくりの労力を省くことが出来る。

パターン1は行政主導で家庭教育支援チームを組成するパターンであり、官民連携が機能するが組成に当たって行政側の負担が大きい。また家庭教育支援チームの立ち上げについては、平成30年に文部科学省にて『「家庭教育支援チーム」の手引書』がとりまとめられており、行政職員並びに地域住民等それぞれが主導する形で組織作りを行う上での方法とポイントが記載されている。新規で家庭教育支援チームを行政主導で組成するための一定の知識やノウハウは既に整理・公開されている状況にあるといえる。

パターン2については、既存の団体を家庭教育支援チームとして登録することで、令和4年度「家庭教育の総合的推進に関する調査研究（家庭教育支援システム構築事業）」に挙げられているチーム創設期の困難感のうち、「人材確保」や「財務努力」といった課題が回避できる。この場合、家庭教育支援チームに登録することのメリットを自治体側が訴求することが重要となる。

また令和4年度「家庭教育の総合的推進に関する調査研究（家庭教育支援システム構築事業）」において実施されたアンケート調査結果でも、家庭教育支援チームが普及するためのアイデアとして「様々な分野で家庭教育支援のような取り組みは行われているが、チームとして設立せずに各々で活動

している現状なので、登録制度の周知が改めて必要かと思う」という意見が挙げられている(同事業報告書 P.24 参照)。

そこで本事業では家庭教育支援体制の更なる拡充に向け、上記パターン 2 に焦点を当てる。具体的には家庭教育支援チーム登録制度を活用しながら地方公共団体と民間事業者の連携を行っている事例を調査分析することによって、家庭教育支援の質の向上や地方公共団体と民間事業者の連携促進の課題や要点を整理、この結果を周知することによって家庭教育支援体制の更なる拡充を狙う。

また令和 4 年度「家庭教育の総合的推進に関する調査研究(家庭教育支援システム構築事業)」においては、現状の家庭教育支援 HP の現状・課題について以下の通り整理されている((同事業報告書 P.2 参照))。

家庭教育支援 HP の現状・課題

- ・「現状の家庭教育の総合的推進においては、家庭教育支援チーム立ち上げやチーム運用に関する情報が少ないことが挙げられ、支援体制の量的充実に向けた課題となっている。」
- ・「既存の家庭教育支援 HP においては、チーム情報の検索はできるものの、その後の詳細ページが PDF で作成されており、内容の検索も困難となっている。また、チーム情報と活動事例が混在し、チームの紹介の役割は果たしていたものの、結成背景や手法などは分からず、家庭教育支援チームの新規結成の参考にすることは難しい状況である。」

※令和4年度文部科学省による委託事業 家庭教育の総合的推進に関する調査研究事業報告書
(令和5年3月 株式会社両備システムズ)より抜粋

以上の現状・課題の整理から現行の HP はターゲットユーザーに向けてどのような情報や機能を提供する必要があるので、ターゲットユーザーにとって使いやすい HP になっているのか、等の観点から課題を検討し改訂を実施する必要がある。

2) 事業目的

以上の整理から本事業の目的を以下と整理する。

- 事業目的 1.家庭教育支援チーム登録制度を活用した官民連携事例の好事例を把握すること
- 事業目的 2.ユーザビリティに優れた HP を構築すること

「事業目的 1.家庭教育支援チーム登録制度を活用した官民連携事例の好事例を把握すること」は、前述の「パターン 2.既存の民間団体による家庭教育支援チームの登録」の好事例を把握しそのポイントを共有することで、「パターン 1.行政主導による家庭教育支援チームの組成」における『「家庭教育支援チーム」の手引書』と同様に、今後地域における家庭教育支援体制を整備していくことに貢献することが見込まれる。

また「事業目的 2.利用者目線からユーザビリティに優れた HP を構築すること」により、家庭教育支援チーム組成という文脈においては前述のいずれのパターンにおいても、その他の家庭教育支援制度に関して関心を持つ者にとっても、効果的・効率的に必要な情報を提供できる環境の整備につながる。

2. 本報告書の位置づけ

本調査事業では、以下 2 点を成果物として作成した。

①「家庭教育支援チーム」における民間事業者との連携促進に関するポイント集（別添）
目的：自治体に対して、「家庭教育支援チーム」における民間事業者との連携促進に関するポイントを提示し、実際の連携に活かすこと。
②本報告書
目的：自治体に関するヒアリング調査のプロセスや詳細、HP 更改のプロセスや結果を記載し、調査事業全体のレポートを行う。

3. スケジュール

本事業のスケジュールは以下である。

事業内容	令和5年		令和6年		
	11月	12月	1月	2月	3月
2-1. 自治体における家庭教育支援チーム登録の促進事例に関する調査					
①. 過去調査結果と仮説、事業の実施方針の整理	→				
②. 調査対象の選定	→				
③. ヒアリング調査事項の策定	→				
④. ヒアリング調査の実施		→			
⑤. ヒアリング調査結果の整理				→	
2-2. 家庭教育支援ポータルサイトの更改					
①. HP改訂の目的の明確整理	→		同時に実施		
②. 現状の課題と実施方針の整理	→				
③. HP改訂案の作成	→				
④. HP改訂	→ プロトタイプの実施			修正 →	
		→ ユーザビリティテストの実施			
			→ アクセス解析		分析 →
2-3. 結果の分析・報告書の作成					
①. 事業報告書の作成				→	
②. 事例集の作成				→	

第2章 事業報告

1. 自治体における家庭教育支援チーム登録の促進事例に関する調査

1) ヒアリング概要

① 調査目的

- 自治体ヒアリング
 - 取組事例として、他自治体の参考になるような、自治体における家庭教育支援チーム登録促進施策の事例を聞き取ること
 - (もしあれば)登録促進施策や、民間団体との連携の課題を聞き取ること
- 民間団体ヒアリング
 - 自治体における家庭教育支援チーム登録促進施策に関する所感を聞き取ること
 - 登録促進のためにさらに必要だと思われる施策を聞き取ること

② 調査手法

オンラインによるヒアリング調査

③ 調査対象選定のプロセス

- 自治体ヒアリング
 - ヒアリング対象の条件の決定
 - 既に「家庭教育支援チーム登録促進施策を実施している自治体」であることを条件とした。
 - 調査対象リストの決定
 - 過去調査からの抽出
 - 令和4年度「家庭教育の総合的推進に関する調査研究(民間による家庭教育支援)」におけるヒアリング調査対象から抽出
 - 新規デスクリサーチにおける抽出
 - 家庭教育支援チームのうち、民間団体が主導で運営をしているチーム数が多い都道府県を抽出
- 民間団体ヒアリング
 - ヒアリング対象の条件の決定
 - 以下2つのどちらかに当てはまっていることを選定の条件とした。
 - **タイプA**:自治体ヒアリング対象先である自治体の地域内にある民間の家庭教育支援チームである民間団体
 - 自治体の登録促進施策に対する所感を聞き取るため

- **タイプ B**: 自治体の登録促進施策の有無にかかわらず、チーム登録を行った民間団体
 - 登録促進施策がなくとも登録をした場合に感じていたメリット等について聞き取るため
- 調査対象リストの決定
 - **タイプ A** 「自治体ヒアリング対象先である自治体の地域内にある民間の家庭教育支援チームである民間団体」
 - 自治体ヒアリング先からの紹介
 - **タイプ B** 「自治体の登録促進施策の有無にかかわらず、チーム登録を行った民間団体」
 - 令和5年度「家庭教育支援チーム」の活動の推進に係る文部科学大臣表彰の被表彰団体から選定

④ 調査対象の決定

以上のプロセスを踏まえて、文部科学省と協議の上、調査対象を決定した。

● 自治体ヒアリング

自治体名	現況（令和5年度）
茨城県	令和3年度より家庭教育支援チームの数増加（数値目標：令和7年度47チーム）のために、施策を推進。 令和3年度24チームだったところ、現時点（令和5年度）では、35チームまで増加
愛知県	家庭教育支援施策推進のため、令和4年より県独自のチーム登録制度を開始し、官民連携を進めている。
奈良県 （奈良県立教育研究所）	平成28年度から家庭教育支援チームの登録促進施策を開始。 毎年1～3チームずつ増えており、合計17チームまで増えてきている。
茨城県坂東市	もともとは、行政主体の家庭教育支援チーム（パターン1）組成を進めていたが、様々な手法で家庭教育に悩みを抱える保護者と繋がっていくことが重要だとの思いから、最近では、民間団体との連携も進めており、市内2団体が登録をしている。

● 民間団体ヒアリング

団体名	所在地	タイプ	活動内容・備考
子育て研究所 tocotoco	奈良県橿原市	タイプ A	・保護者や子どもたちへの交流の場の提供 ・Instagram ライブ（毎日）で情報発信も実施
NPO 法人 SmileyDream	愛知県武豊町	タイプ A	・家庭教育支援講座や子育て中の母親向け支援
NPO 法人ふぁみり いらば	愛知県稲沢市	タイプ A	・おもちゃ図書館の開催 ・不登校児童向け支援 ・子ども食堂の開催

ハレとケ	茨城県坂東市	タイプ A	・不登校児童の親の当事者会の実施等
NPO 法人ネットワークサポート親楽	茨城県古河市	タイプ A	・家庭教育支援講座の開催 ・保護者同士のネットワークづくりの場の提供
村上市家庭教育支援チーム with (NPO 法人村上 ohana ネット、NPO 法人おたすけさんぽく、NPO 法人ココスタ、フリースクール水野谷塾、ふくちや部、放課後等デイサービスおひさま 合同チームの合同団体)	新潟県村上市	タイプ B	・5団体の合同チーム ・子どもや若者・家族への支援活動を合同支援 ・令和 5 年度「家庭教育支援チーム」の活動の推進に係る文部科学大臣被表彰団体
NPO 法人おひさまと風の子サロン	京都府福知山市	タイプ B	・乳児を持つ保護者への支援活動 ・令和 5 年度「家庭教育支援チーム」の活動の推進に係る文部科学大臣被表彰団体

2) 初期仮説の設定・ヒアリング項目の設定

① 初期仮説の設定

令和 4 年度「家庭教育の総合的推進に関する調査研究（民間による家庭教育支援）」のヒアリング内容を踏まえて、調査開始時に立てていた、「自治体における家庭教育支援チーム登録の促進」に関する課題の仮説、及び関連する事例の方向性は以下の通りである。

自治体における課題の仮説	事例の方向性
地域の団体に提示する際の「家庭教育支援チーム」登録の利点が整理されていない	登録の利点を、団体の目線も意識しながら、具体例踏まえて整理する。現状考えられる登録の利点は以下の通り。 <ul style="list-style-type: none"> ✓ 認知度、信頼性の向上 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 国の登録を受けていることをアピールに繋げ、地域内での認知度向上、ひいては地域住民の利用や、人材獲得の際の信頼獲得につなげる点 ✓ 行政との連携 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 行政と連携して、様々な事業展開の可能性を広げることができる点 ✓ 他のチームや団体との連携 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 勉強会や研修等を通じて、他チームの活動をしることができ、自団体の活動の発展につなげることができる点

地域団体へのアプローチ方法がわからない	<p>地域団体への接点の持ち方や登録促進のアプローチ方法を整理する。現状考えられるアプローチ方法は以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 担当課以外の地域を知る部署や外郭機関との連携 ✓ 研修や勉強会等、地域団体との接点を作るイベントの開催 ✓ チラシや Web 等の周知による「プル型」のアプローチ ✓ 地域団体に関するデスクリサーチ
---------------------	--

② ヒアリング項目の設定

初期仮説をもとに、以下のようにヒアリング項目の設定を行った。

- 自治体ヒアリング
 - 基本情報
 - 自治体における家庭教育支援に関する取組の全体像
 - 登録促進支援策の内容
 - 家庭教育支援チームの登録促進の詳細
 - 具体的な登録促進の取組の内容、期間
 - 訴求した方法についての工夫
 - 認知度、信頼性の向上の観点
 - 行政との連携の観点
 - 他のチームや団体との連携の観点
 - 地域団体へのアプローチの方法についての工夫
 - 担当課以外の地域を知る部署や外郭機関との連携
 - 研修や勉強会等、地域団体との接点を作るイベントの開催
 - チラシや Web 等の周知による「プル型」のアプローチ
 - 地域団体に関するデスクリサーチ
 - 取組の効果
 - 今後の施策検討に関する課題
- 民間団体ヒアリング
 - 基本情報
 - 団体設立の経緯、活動内容
 - 以下観点について、「家庭教育支援チーム」登録時および登録後に認識したメリット
 - 認知度、信頼性の向上の観点
 - 行政との連携の観点
 - 他のチームや団体との連携の観点
 - その他の観点
 - 今後の施策検討に関する課題
 - 「家庭教育支援チーム」登録制度や、行政との連携について、課題や期待する点

3) 調査結果・分析

ヒアリング調査の内容を踏まえて、以下の観点から結果をまとめた。

● ①メリット訴求の工夫

仮説に沿って聞き取った以下 3 点から情報を整理した。

- 認知度・信頼性の向上の観点
- 行政との連携・助成の観点
- 他のチームや団体との連携の観点

● ②アプローチの工夫

アプローチの工夫については、当初仮説として設定していた広報手段の前段として、以下のアプローチ方法があることがヒアリング内で分かった。そのため以下に沿って情報を整理した。

- 都道府県から基礎自治体への広報
- (都道府県・基礎自治体から) 民間団体への直接広報

① メリット訴求の工夫

● 認知度・信頼性の向上の観点

● 自治体の取組事例

○ ロゴマーク活用のメリット説明

- 「メリットがないと登録してもらえないので、『国公認とわかるロゴマークが使える』ということをメリットとして強調して、基礎自治体に伝えている。」(茨城県)
- 「家庭教育支援のロゴマークを使用できることを『家庭教育支援チーム』登録の HP 上に掲載している。」(愛知県)

● 登録団体からのコメント

○ チーム登録によって、認知度・信頼性向上につながった事例

- 「国から「家庭教育支援チーム」として認定してもらうことにメリットを感じて登録した。「NPO 団体」は様々あるため、宗教がらみなのでは、と疑われることもあるのだが、ロゴマークのおかげで、地域住民の信頼を獲得することができたので、大きな効果だったと思う。」
- 「ロゴマークは、参加者募集のチラシの中に入れている。」
- 「ロゴマークは、団体の HP に入れ込んでいる。」
- 「ロゴマークは、名刺に使っている。名刺に入れる場合には、初対面の自己紹介の際に、その点も含めて紹介するようにしている。」

○ 認知度・信頼性向上に関する要望、コメント

- 「ロゴマークが使えることは全く知らなかった。行政側から、登録の際に、そのメリットやロゴマークの使用の詳細(自由に使ってもいいものか、名刺や HP に載せることは可能か)について、教えていただけると、登録のメリットがわかりやすく登録するモチベーションも上がると思う。」

- 「ロゴマークがステッカーのような形で使えると、活動場所の入口や、PC に貼って、多くの方に知ってもらうことができるのでよいと思う。」
- 行政との連携・助成の観点
 - 自治体の取組事例
 - 財政支援の事例
 - 「文部科学省の補助制度を活用し、国 1/3、県 1/3、基礎自治体 1/3 での補助を行っている。この補助制度を基礎自治体の担当者が集まる時、さらに個別でも案内することで、チーム登録を増やすきっかけとしている。」
 - チーム登録団体に公民館の減免措置
 - 「チーム登録団体について、公的施設の使用料を減免するといった仕組みを作り、登録を促進している。」(坂東市)
 - 広報に関する連携
 - 「取組を応援したい民間団体があったが、市町村が後援するには、その団体がしっかりした団体だという説明をする必要があった。そのために、家庭教育支援チームの登録を勧めて、登録してもらった。結果として、市の広報誌やホームページでイベントを案内することができ、官民連携ができたと考えている。」(坂東市)
 - 官民連携のアピール訴求
 - 「国の家庭教育支援チームとは別に、県の家庭教育支援チームの登録制度も設けている。県や市町村、他チームとのつながりが作りやすくなり、自分たちの活動を周知できるということも、民間団体側のメリットとして説明している。」(愛知県)
 - 自治体の課題
 - 「過年度において、国のモデル事業を活用し、市町村・家庭教育支援チームの支援を行っていた。ただ、モデル事業に参加する市町村が徐々に減少し、直近の数年は、同じ市町村が参加する状況にあった。支援チームが新たに誕生しなければ、既存チームの活動費に補助金が充てられることになり、本来、チーム構築に向けた補助金を、既存の同チームの活動費にあてるものではない、という考えから、県から補助金を支出することが難しくなり、モデル事業を終了した。」
- 登録団体からのコメント
 - チーム登録によって行政との連携につながった事例
 - 「家庭教育支援チームの表彰団体に選出されたことで、行政からの評価が高まった。」
 - 「団体を設立したばかりということもあり、不登校支援を行っていることから、学校を統括する行政(教育委員会)と連携することがいいのか、という点で当初は悩んだ。ただ、行政の方から連絡をいただき、チームに登録することになって、広報誌での当事者会の案内など、広報活動を行政に協力いただき、会の参加者も増えた。結果、行政との連携ができたことは大きな効果だったと感じる。」

- 「県から紹介を受けてチーム登録を行ったが、結果として基礎自治体からも、チーム連携させてほしいというお声がけをいただいた。これまで団体側から基礎自治体に働き掛けても、連携がうまく進まなかったため、チーム登録により一歩前進した感触がある。今後は、就学時健診の家庭教育講座などで連携をおこなっていく予定。」
- 行政との連携に関する要望、コメント
 - 「予算が限られる中、イベントや交流会の場所確保に苦戦している。家庭教育支援チームに登録されている団体については、行政のスペース(会議室等)を貸してくれるといった制度があるとありがたい。」
 - 「チーム登録をすると、行政との連携が進み、さらに団体の活動が広がっていくことを実感している。一方で、その点の理解が進んでいない団体も地域の中には多くいる印象があるので、行政連携につながることをもっとアピールしてもいいのではないか。」
- 他のチームや団体との連携の観点
 - 自治体の取組事例
 - 情報交換会の実施
 - 「家庭教育支援チーム・自治体関係者・家庭教育支援に興味のある個人、団体が参加できるセミナーを開催しており、各団体の紹介や、家庭教育支援に関する講演を行っている。」(奈良県)
 - 「県の家庭教育支援チームの登録制度ができて1年経ち、登録のメリットを団体に感じてほしいという思いから、家庭教育支援チーム交流会を開催した。登録チームそれぞれに直筆の手紙を書き、企画段階から各家庭教育支援チームと連携を図り、「顔の見える関係」を築いたことで、最終的に多くのチームが参加した。当日の内容としては、ポスターセッションによる各チームの活動発表と、全体交流会を行った。事後アンケートで違う地域の団体と交流がもてたのは良かったという声があった。」(愛知県)
 - 登録団体からのコメント
 - 他のチームや団体との連携につながった事例
 - 「県開催の家庭教育支援チーム交流会の中で、行政職員の方が全団体の意見を聞く時間があり、民間団体側がお互いに意見を自由に言い合い、一緒になって考える場があってよかった。他のチームとの連携につなげていけるといいと思った。」
 - 他のチームや団体との連携に関する要望、コメント
 - 「交流会については、自治体が主催してくれることはありがたいが、官民連携していくには、『やる側』『やってもらう側』といった関係でなく、民間団体側が主体で動いていくことも重要だと思っている。そういう意味では、うまく行政と役割分担をして、交流会の企画運営などは民間団体側で進めていくでもいいと思っている。」
 - 「県がチーム交流会を開催くださり、刺激もあってよかったが、表面的な交流のみで終わってしまったところがあった。ボランティアの集め方や活動資金集めなどといった

踏み込んだノウハウの共有がある場の方が、継続的に参加する団体は増えていくと思う。」

- 「自分の地域外の活動については、知る機会がほとんどない。オンラインでもいいので、広域地域の家庭教育支援チームとの事例発表・活動紹介などの機会があるとよい。」
- 「登録はしたが、家庭教育支援チームの登録メリットがわからないところもある。他の団体がどのようにチーム登録制度を活用されているのか、チーム登録によって事業が広がった、といったお話が聞けるとよい。」

② アプローチの工夫

● 都道府県から基礎自治体への広報

● 自治体の取組事例

○ 研修や会議の場での説明・広報

- 「基礎自治体の教育委員会の生涯学習課の担当者向けの研修や会議で、チームの登録制度の説明を、資料を用いて行った。」（茨城県）

○ 独自資料の作成、配布

- 「家庭教育支援チーム自体の理解促進のため、県独自に概要を示す資料を作成し、市町村に配布した」（茨城県）
- 「登録に関するチラシを作成して、基礎自治体に活用を呼び掛けた。」（奈良県）

○ 基礎自治体向けの情報交換会を実施

- 「県の家庭教育支援方針の説明とともに、グループ交流会、全体交流会も兼ねた情報交換会を実施。家庭教育支援を扱う社会教育部局の担当者だけでなく、子育て支援を扱う保健福祉部局の担当者にも参加してもらい、福祉と家庭教育支援の連携促進にもつなげている。」（愛知県）

○ 電話での声掛け

- 「基礎自治体に電話をして、登録要件を満たす団体がないか聞き取りを行った。」（奈良県）

○ 通達の発出・提出書類のサポート

- 「訪問型アウトリーチ補助事業を活用している市町村に対しては登録必須という通達をした。その際、申請書の書き方がわからない場合もあったので、他市町村での事例を示すなどサポートを行った。」（茨城県）

● 自治体の課題

- 「家庭教育支援チームとはなんなのかという説明がもっとほしい。平成 30 年に発出された手引きは見ているが、分量が多く基礎自治体は見ないだろう。A4 1枚くらいでわかりやすく記載してあると良いのでは、と感じている。手引き以前に、家庭教育支援とは？という簡単な説明資料があると良い。」

- 登録団体からのコメント
 - 基礎自治体から広報があり、登録に繋がった事例
 - 「家庭教育支援チームの登録制度については知らなかったが、いつもお世話になっている市町村から声掛けがあったので、登録を行った。」
 - 基礎自治体への広報に関する要望・コメント
 - 「家庭教育支援チームに登録しても、基礎自治体の担当者が、チーム登録制度について知らず、説明に時間がかかった。基礎自治体への広報を広げてほしい。」
 - 「文科省から表彰を受けたが、基礎自治体からは何も音沙汰ない。基礎自治体はチームをどのように思っていて、どう活用すればよいのかわからないのではないか。」

- 民間団体への直接広報
 - 自治体の取組事例
 - 家庭教育に関心が高そうな一般市民向けイベントでの広報
 - 「親子イベントなどの中でチラシをおき、イベントのブースの1つとして家庭教育支援チームの紹介コーナーを設けて、チーム登録のメリットについて知ってもらう機会を設けた。」(奈良県)
 - 「県で一般市民向けに開催している『親の育ち家庭教育支援者養成講座』『家庭教育研修会』にて、家庭教育支援チーム登録制度や、チームを導入する意義について説明している。」(愛知県)
 - 別事業で接点のある民間団体への直接アプローチ
 - 「高校生向けに県福祉部で実施している『赤ちゃんふれあい体験授業』の実施団体など、別事業で接点のある団体に声掛けを行った。声掛けの際は、直接訪問をして、活動内容等を聞き取りつつ、登録の提案を行い、その旨を基礎自治体担当者にも伝えていった。」(茨城県)
 - 行政担当者も参加する協議会での広報
 - 「家庭教育関係者が連携して情報交換を行う『地区家庭教育推進協議会』を開催。県内6地域で開催し、各市町村の行政担当者と民間団体に1名ずつ参加してもらうようにし、そこで家庭教育支援チームの広報も行った。」(愛知県)
 - 登録団体からのコメント
 - 自治体(都道府県)から直接誘いがあり、登録に繋がった事例
 - 「県の支援者講習で事例発表をしたところ、家庭教育支援チームに登録しないかと誘いを受けた。」

4) ポイント集の作成

上記調査の結果、分析の概要版として、自治体に民間団体との連携のための取組を進めてもらうことを目的に、「『家庭教育支援チーム』における民間事業者との連携促進に関するポイント集」を作成した。

(下図は内容の一部抜粋。詳細は添付資料を参照のこと)

おわりに ～自治体への取組の提案～

自治体、民間団体への聞き取り結果を踏まえ、民間団体へのチーム登録促進のために、自治体を実施できるとよい取組を整理しました。

1. メリット訴求の工夫

①認知度・信頼性の向上の観点

- ・ ロゴマークを活用して国認定の制度に登録していることをアピールでき、参加者や行政からの認知度・信頼度に繋がる点は、民間団体にとって、チーム登録の大きなメリットになります。
- ・ この点を、自治体側が理解した上で、登録依頼の際、積極的に民間団体に伝えていけるとよいと考えられます。

②行政との連携・助成の観点

- ・ 団体PRや情報提供などを行う際の行政の広報支援、公民館など公共施設の使用料減免措置支援等、行政と連携ができることで、活動の幅が広がると感じる民間団体は多くあるため、自治体としてはそのような連携の選択肢を用意することが必要になってきます。
- ・ 一方で、前提として、民間団体が求めている連携のあり方は何か、ということを丁寧に聞き取っていくことも重要です。民間団体と対話の機会を設定し、民間団体のニーズや困りごとに対して、行政としてどのような支援を行うことができるのか、検討していくことが求められます。

③他のチームや団体との連携の観点

- ・ 地域内の家庭教育支援チーム同士の交流の機会があることはメリットと感じるという意見が民間団体側から多くありました。
- ・ 一方で、ただ集まる場を設定するだけでは不十分と感じるという声もありました。民間団体が求めている情報（活動内容の工夫・充実や、人材確保といった、団体運営のポイント等）を家庭教育支援チーム同士で交換できる機会を作るなど、効果的な連携・ネットワークづくりが求められます。

12

おわりに ～自治体への取組の提案～

自治体、民間団体への聞き取り結果を踏まえ、民間団体へのチーム登録促進のために、自治体を実施できるとよい取組を整理しました。

2. アプローチの工夫

①都道府県から基礎自治体への広報

- ・ ヒアリングした都道府県の中では、基礎自治体へ向けて広報を行っている自治体が多かった一方で、民間団体側からは、「基礎自治体のチーム制度への理解がなく困った」といった声もありました。都道府県からの研修や会議の場での登録制度の説明や、チラシでの広報が必要で。
- ・ P.4に記載したように、官民連携によって、民間団体ならではの知見や媒体も活用しながら、家庭教育に課題を抱える保護者に対してアプローチを行うことができ、支援の幅を広げることができるなど、「民間団体のチーム登録によって何が実現されるのか」という点を説明していく必要があります。
- ・ また、「民間団体にとって、チーム登録のメリットは何か」という点を共有していくことも重要です。「1. メリット訴求の工夫」の提案を参考にしながら、各自治体の特性に合わせた民間団体の登録メリットも、基礎自治体向けに伝えていけるとよいと考えます。
- ・ 基礎自治体の中には、チーム登録制度を進める際に、福祉部局を巻き込む必要がある場合もあります。説明会の参加には、社会教育部局だけでなく、福祉部局も呼ぶなど、庁内の他部署も最初から巻き込みつつ、取組の啓発をはかる必要もあります。

②民間団体への直接広報

- ・ 民間団体への広報のためには、市民向け講座など地域で行う様々な事業において広報を行い、接点を持つことが重要です。
- ・ 別事業（社会教育部局でなく福祉部局などの他部署事業も含む）で接点のあった団体にも声掛けをしていくことも有効な手段であると考えられます。その際、直接訪問も含めて丁寧にコミュニケーションを行い、お互いの認識をすり合わせていくことがチーム登録促進やその先に目指す官民連携にあたって必要となります。

13

2. 家庭教育支援ポータルサイトの更改

1) 事業概要・目的

① 目的

ユーザビリティに優れた HP を作成し、「家庭教育支援」の情報について、必要な人に届けること。

② ターゲットユーザー

更改前にターゲットユーザーと、それぞれのターゲットユーザーについて、HP 閲覧を通じて目指したい状態、必要な情報について、以下の通り、整理を行った。

ターゲットユーザー	HP 閲覧を通じて目指したい状態	必要な情報
行政(国、都道府県、市町村)の担当職員	<ul style="list-style-type: none"> ・「家庭教育支援」「家庭教育支援チーム」の全体像や理念を理解する ・家庭教育支援チーム組成のプロセスや、登録促進の事例を認知、理解し、自治体での取り組みに活かすことができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・「家庭教育支援」「家庭教育支援チーム」の全体像や理念に関する説明 ・マニュアルや手引き等、チームの立ち上げや登録促進に必要な情報
家庭教育支援及び同制度に関心のある支援団体(NPO 等)・企業	<ul style="list-style-type: none"> ・「家庭教育支援」「家庭教育支援チーム」の全体像や理念を理解する ・家庭教育支援チーム登録のメリットを理解し、登録意欲が向上している ・企業の家庭教育への応援の仕方の事例を知り、自社の取組に活かすことができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・「家庭教育支援」「家庭教育支援チーム」の全体像や理念に関する説明 ・他の団体(チーム)の事例
家庭教育支援を必要とする子供や家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・国が進める「家庭教育支援」の理念を理解し、困った際に SOS を求めたり、まわりの子どもたちに手を差し伸べることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近で受けられる支援に関する情報

2) ポータルサイトの更改方針

現状の HP を踏まえて、以下の通り課題の整理と実施方針の整理を行った。

課題	課題の詳細	解決の方向性
「家庭教育支援」に関する全体像整理	<ul style="list-style-type: none"> ・「家庭教育」「家庭教育支援チーム」に関する上段の情報がトップページにない 	<ul style="list-style-type: none"> ・「家庭教育とは」というページをトップページにリンクとして置く ・「家庭教育支援チーム」に関するページについて概念図等を挿入し、わかりやすい説明をつける
トップページから飛ぶ「第1階層」のタイトル、サムネイル、リンク先ページの対象ユーザーに合わせた整理	<ul style="list-style-type: none"> ・ユーザー属性ごとに情報が整理されていない ・見出しのタイトルやデザインと、リンク先のページの内容が一致していない 	<ul style="list-style-type: none"> ・どのユーザーを対象にしているかがわかる見出しタイトル、デザインとする ・ユーザーにとって重要度が高い内容を上層やページ上部に置く ・ユーザー毎に不要な情報は移動または削除し、必要な情報を追加する

	・マニュアルや手引きなど、ユーザーが求める内容が下層にあり情報を見つけにくい	・本事業で作成する「『家庭教育支援チーム』における民間事業者との連携ポイント集(自治体向け)」リンクの設置
HP 全体の見やすさ向上 (UX 向上)	・別リンクからのリンク先が重複していたり、循環構造になっていたりする ・文字が小さく、かつ情報量が多く見づらい	・重複、循環しているリンクは削除する。 ・文字サイズ等見やすさを考慮し、掲載内容の精選を行う

3) ポータルサイトの更改内容

事業概要・目的を踏まえて、ポータルサイトの構成を以下のように更改した。

	変更前の順序	変更前の見出し	変更後の順序	変更後の見出し	ターゲットユーザー
a.	3	地域で家庭教育を応援しよう!	1	家庭教育支援の活動をしたい地域の方へ・制度を広めたい自治体の方へ	行政(国、都道府県、市町村)の担当職員 家庭教育支援及び同制度に関心のある支援団体(NPO等)
a.	5	新しいつながり合いのかたち	1	「家庭教育支援の活動をしたい地域の方へ・制度を広めたい自治体の方へ」ページに統合	家庭教育支援及び同制度に関心のある支援団体(NPO等)
b.	2	「お父さん」「お母さん」を楽しもう!学ぼう!	2	子育てをしている方、子育てに悩んでいる方	家庭教育支援を必要とする子供や家庭
c.	4	企業も家庭教育を応援しよう!	3	家庭教育を応援している企業の取組	家庭教育支援及び同制度に関心のある企業
d.	1	ライブラリ	4	関連資料集	全ユーザー

					行政（国、都道府県、市町村）の担当職員
e.	6	児童虐待から子供たちを守るために	5	児童虐待に関する取組	家庭教育支援を必要とする子供や家庭

① HP トップページ
(変更前のページ)



(変更後のページ)

- 各ページに遷移するイラスト・タイトルを変更
- 「家庭教育ってなんだろう?」ページへのリンクバナー追加
- 閲覧者が多いと思われる「各自治体向けホームページリンク集」「家庭教育支援チーム一覧」のリンクバナーを追加
- 省庁のリンクについて、リンク切れのバナーは削除
- こども家庭庁ページについてはリンクバナーを作成



② b. 旧版: 「地域で家庭教育を応援しよう!」「新しいつながりの形」、「家庭教育支援の活動をしたい地域の方へ・制度を広めたい自治体の方へ」ページ

(変更前)



(変更後)

- 上部のイラスト、タイトルを変更



- 「家庭教育ってなんだろう?」ページのリンクの削除
- 「家庭教育支援チーム」に関する概念図イラストを追加
- 本事例のポイント集のリンクを追加
- 旧「新しいつながりの形」ページからリンク一覧を統合

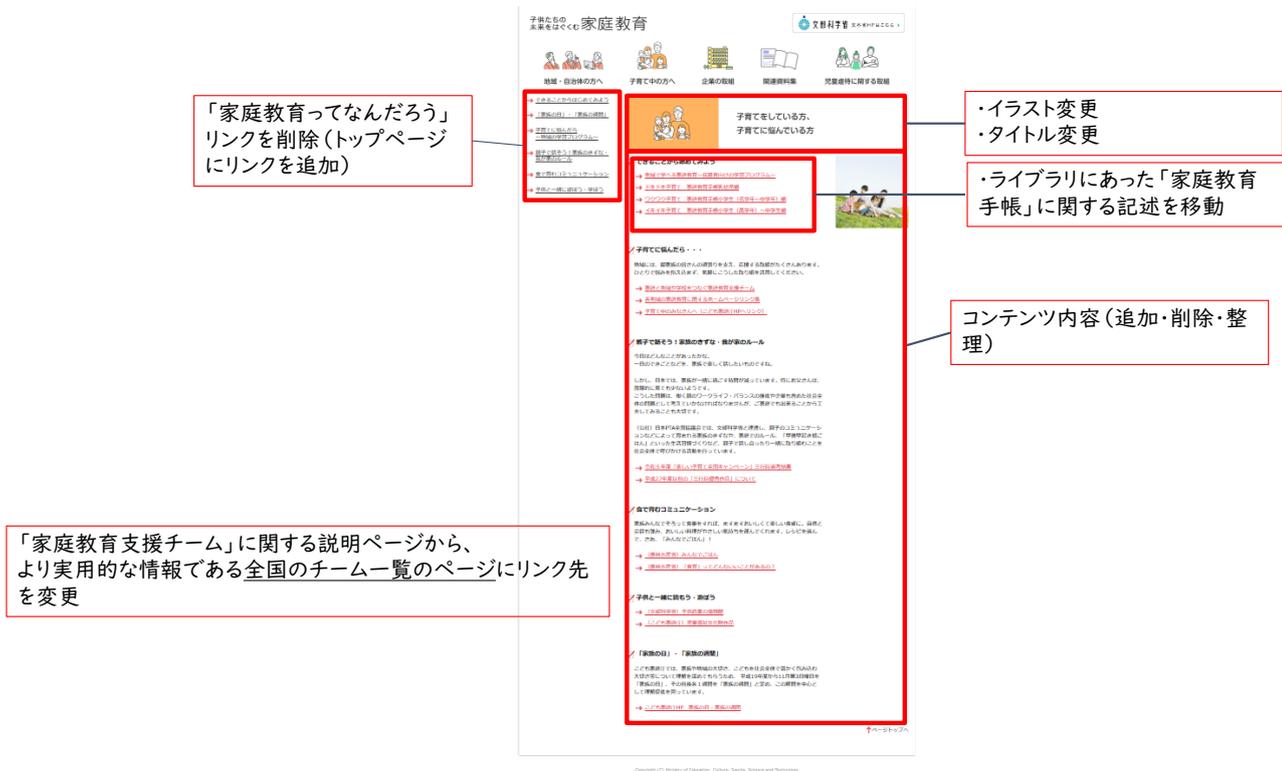


③ b. 旧: 「「お父さん」「お母さん」を楽しもう!学ぼう!」、更改後「子育てをしている方、子育てに悩んでいる方」ページ (変更前ページ)



- (変更後ページ)
- 上部のイラスト、タイトルを変更

- 「家庭教育ってなんだろう？」ページのリンクの削除
- コンテンツ内容の整理（読みやすいよう、各内容の文字数削減、リンク切れのリンク削除）
- 旧ライブラリページにあった「家庭教育手帳」に関する記述をトップに移動



④ c. 旧：「企業も家庭教育を応援しよう!」、更改後「家庭教育を応援している企業の取組」ページ（変更前ページ）



（変更後ページ）

- 上部のイラスト、タイトルを変更
- 「家庭教育ってなんだろう？」ページのリンクの削除

● コンテンツ内容の整理 (わかりづらい見出しの削除)



⑤ d. 旧:「ライブラリ」、更改後「関連資料集」ページ (変更前ページ)



(変更後ページ)

- 上部のイラスト、タイトルを変更
- 調査事業に関するトピックスを削除
- 「家庭教育手帳」に関する記述を削除 (「子育てをしている方、子育てに悩んでいる方」ページに移動)



⑥ e. 旧:「児童虐待から子供たちを守るために」、更改後「児童虐待に関する取組」ページ
(変更前ページ)



(変更後ページ)

- 上部のイラスト、タイトルを変更
- 「家庭教育ってなんだろう？」ページのリンクの削除
- 児童相談所虐待対応ダイヤルに関するリンクを追加



4) 継続的な改善に向けた検討

① ユーザビリティテストの実施

HP 更改後、ユーザビリティテスト(インタビュー)を実施した。

● インタビュー先一覧

● 行政の担当職員

○ 先進的な取組を行っている自治体

● 選定方法

- 「1.自治体における家庭教育支援チーム登録の促進事例に関する調査」における「自治体ヒアリング」の調査対象に依頼

● インタビュー先

- 茨城県
- 愛知県
- 奈良県
- 坂東市

○ チームを設置しているが、先進的な取組までは行きついておらず、課題があると思われる自治体ヒアリング項目

● 選定方法

- 家庭教育支援チームの登録のある市町村からランダムに選出

● インタビュー先

- 十日町市
- 福岡市

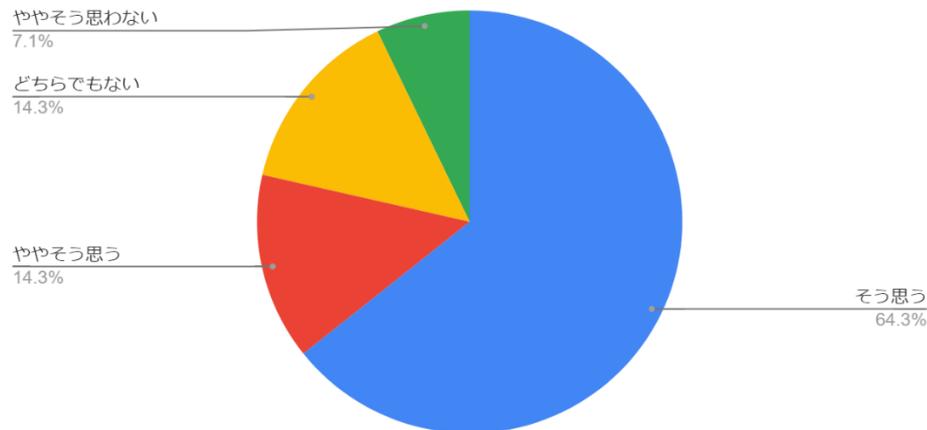
- 家庭教育支援チーム未設置自治体
 - 選定方法
 - 弊社自治体リレーションの中から、チーム登録のない自治体を選出
 - インタビュー先
 - 高島市
 - 山形市
- 家庭教育支援及び同制度に関心のある支援団体(NPO等)・企業
 - 選定方法
 - 「1.自治体における家庭教育支援チーム登録の促進事例に関する調査」における「民間団体ヒアリング」の調査対象に依頼
 - インタビュー先
 - 子育て研究所 tocotoco
 - NPO 法人 SmileyDream
 - NPO 法人ふぁみりい・らぼ
 - ハレとケ
 - NPO 法人ネットワークサポート親楽
 - 村上市家庭教育支援チーム with (NPO 法人村上 ohana ネット、NPO 法人おたすけさんぼく、NPO 法人ココスタ、フリースクール水野谷塾、ふくちゃ部、放課後等デイサービスおひさま 合同チームの合同団体)のうち、
 - NPO 法人おひさまと風の子サロン
- 質問内容
 - 行政の担当職員向け
 - 基礎情報(家庭教育支援に関する取組、課題)
 - 家庭教育支援や家庭教育支援チームの全体像や理念の説明について
 - ホームページ上で「家庭教育支援」「家庭教育支援チーム」の全体像や理念の説明はわかり易いものになっているか(説明文、デザイン)、アクセスし易い導線になっているか
 - チーム登録の手続きに関する説明について
 - 家庭教育支援チーム組成や登録促進を行った経験に照らし合わせて、手続きに必要な情報が網羅されているか、また、アクセスし易い導線になっているか
 - 現在、業務においてどのような場合にホームページを使用するか
 - その他、施策の推進に必要な情報が網羅されているか
 - 家庭教育支援及び同制度に関心のある支援団体(NPO等)・企業向け
 - 「家庭教育支援」「家庭教育支援チーム」の全体像や理念の説明はわかり易いものになっているか(説明文、デザイン)、アクセスし易い導線になっているか

- チーム登録を行った経験に照らし合わせて、登録のメリットや方法について、必要十分な情報が網羅されているか、また、アクセスしやすい導線になっているか
- 他の団体（チーム）の事例はわかり易く、また、アクセスしやすい導線になっているか
- チーム登録を行った当時、ホームページをどのような形で参照したか
- 現在の家庭教育支援チームの活動にあたり、他に必要な情報はるか
- その情報はホームページ上にあるか、また、アクセスしやすい導線になっているか

② ユーザビリティテストの結果

● ポータルサイトの満足度評価について

- 「このポータルサイトは、自治体と民間との連携に意義があると思うか？」という質問を実施し、「そう思う」「ややそう思う」「どちらでもない」「ややそう思わない」「そう思わない」の5段階評価で回答を得た。



- 結果として、「そう思う」「ややそう思う」の回答比率が全体の78.6%となった。

● ヒアリングの結果

- 家庭教育支援や家庭教育支援チームの全体像や理念の説明について

○ 自治体向けページについて

- 「家庭教育支援をどの部署が担当するかで庁内協議中であり、チーム制度についても都道府県からの案内をいただいたことはなく、初めて知った。民間団体と連携は進めたいと思っているが、どのように議論の仕方を進めるかで迷っているところ。そのような事前知識がない自治体でも、わかりやすい概念図や説明があることで、制度を知るきっかけとなり、よいHPだと思う。」（自治体からの意見）

○ 保護者向けページについて

- 「家庭教育ってなんだろう？」のページは、家庭教育としてやることが多いように読め、人によってはプレッシャーに感じるかもしれない。親だけが頑張る必要はなく、必要な時には支援に頼ってもいい旨をもっと強調してほしい。」（民間団体からの意見）
- 「家庭教育ってなんだろう？」のページについて、幸せそうな家族の写真であるのを見て、気持ちが寂しくなる人もいるのではないか。イラストなどの方がいいのではないか。」（民間団体からの意見）

- 「子どもの表記が「子供」となっていることに違和感を覚える」(自治体からの意見)
- 「子育てに『悩んでいる方』という表記は、保護者にとって、ハードルが高く感じるのではないか」(自治体からの意見)
- チーム登録の手続きに関する説明について
 - 「チーム登録と直接関係ないかもしれないが、補助金に関する説明があると、自治体も民間団体も活用しやすく、よいかもしれない。」(自治体からの意見)
 - 「自治体側がチーム登録制度について理解しやすい説明をもっと入れてほしい。行政側が民間団体との連携を高めたい、と思うような事例や制度の説明など。」(民間団体からの意見)
 - 「ロゴマークを使えるなど、家庭教育支援チームに登録することによるメリットに関する説明をもっと入れた方がいいのではないか。」(民間団体からの意見)
- 他のチーム事例について
 - 「各団体紹介ページは便利に感じる。紹介ページを読み物として、定期的に出してほしい。」(民間団体からの意見)
 - 「各団体紹介ページは、写真なども含めて掲載した方がいいのではないか。」(民間団体からの意見)
 - 「各チーム紹介が pdf ファイルで見づらい。何をしている団体が一目でわかるようにしてほしい。カテゴリー・地域ごとに分けられるといいのではないか。」(民間団体からの意見)
- 過去参照したページ
 - 「チーム紹介ページと、家庭教育手帳のページはよく見ている。家庭教育手帳については、家庭教育支援に関する講座を実施するときに参考になっている。」(自治体からの意見)
 - 「登録制度やロゴマークの説明について」(民間団体からの意見)
 - 「チーム一覧のページ。近くの地域が何をしているか、などは具体的に探した。」(民間団体からの意見)
- 他に必要な情報について
 - 「家庭教育支援の講座を実施する際に、講師に迷う。具体的な講師リストがあるとうれしい。」(自治体からの意見)
 - 「行政窓口のページが各市町村別にあるとよい。」(民間団体からの意見)
- その他
 - 「よいページだが、そもそも、見たことがなかった。子育て層や民間団体がもっとこのページにたどり着けるような工夫が必要なのでは。」(民間団体からの意見)
 - 「スマホだと見づらいので、スマホ版 HP を用意してほしい。」(民間団体からの意見)
 - 「各地域の家庭教育に関するホームページリンク集について、リンクが切れていたり、古い情報のページがある。」(自治体からの意見)

③ ユーザビリティテスト踏まえた更改

ユーザビリティテストの中で寄せられた意見のうち、以下については、本事業内で修正が可能だったため、修正作業を行った。

- 事例紹介ページの表彰団体のリンク追加

- 「家庭教育支援チーム一覧」内にある事例について、より詳しい内容を読みやすい形で見たいという意見が特に民間団体より多く出た。
- 現状あるすべてのチーム紹介をそのように更新することは難しかったが、「家庭教育チーム」に関する被表彰団体の活動については、別途読みやすい活動紹介が文部科学省ページ内で紹介されていたため、そちらの内容を「家庭教育支援チーム一覧」ページの上部に配置した。



- 「各地域の家庭教育に関するホームページリンク集」の更新
 - 「各地域の家庭教育に関するホームページリンク集」のページについて、「自地域(基礎自治体)の情報も掲載してほしい」「リンク切れや古い情報の掲載のままとなっているページがある」といった意見があった。
 - 基礎自治体別となると自治体数が多くなるため、都道府県・政令指定都市のみではあるが、並行して弊社が実施を行った令和5年度「家庭教育支援推進のための調査研究(家庭教育についての保護者へのアンケート調査)」にて実施した自治体向けアンケートにて、家庭教育支援に関する最新のホームページ URL を聞き、回答があった自治体分については更新を行った。(各地域の家庭教育に関するホームページリンク集ページ(一部))

子供たちの未来をほぐくも **家庭教育** 文部科学省 文科省HPはこちら ▶

 地域・自治体の方へ
  子育て中の方へ
  企業の取組
  関連資料集
  児童虐待に関する取組

各地域の家庭教育に関するホームページリンク集 ← 戻る

✓ **都道府県・指定都市のホームページ（家庭教育関連）**

北海道
[家庭教育支援のページ](#)

青森県
[あおりの生涯学習一歩しむ 高める 年かすー](#)
[青森県総合社会教育センター「あおりの子育てネット」](#)

岩手県
[岩手県生涯学習情報提供システム「まなびネットいわて」](#)

宮城県
[宮城県子育てサポートー](#)
[父親の家庭教育計画支援事業](#)

秋田県
[家庭教育支援指導者研修](#)

福島県
[親子対応学習プログラム](#)

茨城県
[家庭教育応援ナビ「まぐすく育ていばらきっ子」](#)
[企業との連携による教育支援ウェブサイト](#)

栃木県
[家庭教育を支援します](#)

④ アクセス解析

- 概要

- 時期

- 2024年1月20日～2024年2月20日

- 方法

- サイト内に Google アナリティクスを埋め込み、アクセス解析を実施。（so design 社への委託）

ページ別アクセス数

すべてのユーザー 比較対象を追加

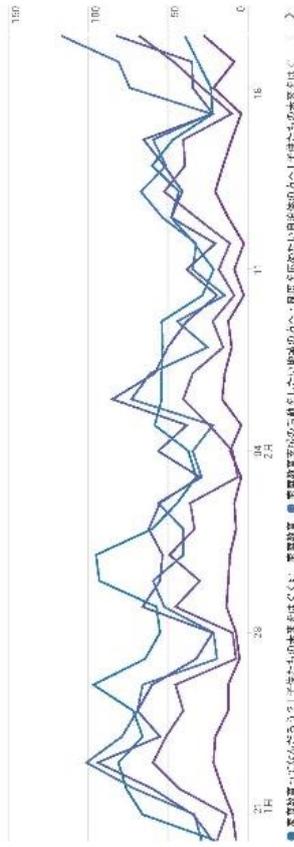
ページとスクリーン: ページタイトルとスクリーンクラス

フィルタを追加

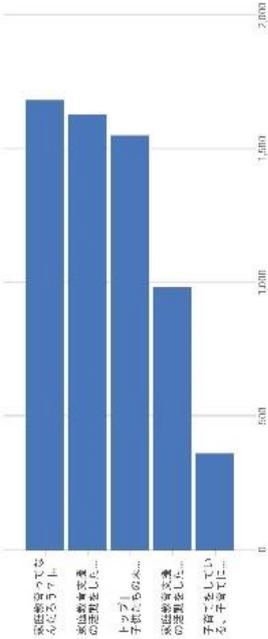
カス9.4 1月20日~2024年2月20日

レポートに移動

検索履歴の検索: ページタイトルとスクリーンクラス別



検索履歴の検索: ページタイトルとスクリーンクラス別



検索履歴	ユーザー数	ユーザー数	ユーザーあたりのページビュー	平均エンゲージメント時間	イベント数	イベントあたりの収益	収益
	全体の100%	全体の100%	全体の100%	全体の100%	全体の100%	全体の100%	全体の100%
1 家庭学習ってなんだろう? 子供たちの未来をほぐす心 家庭学習	1,682	1,200	2.31	1分08秒	25,921	0.00	¥0
2 家庭学習以外の活動もしたい! 家庭の方へ 子育ての未来をほぐす心 家庭学習	1,628	808	2.01	1分09秒	8,241	0.00	¥0
3 トップ 子供たちの未来をほぐす心 家庭学習	1,550	1,060	1.45	21秒	6,012	0.00	¥0
4 家庭学習以外の活動もしたい! 家庭の方へ 子育ての未来をほぐす心 家庭学習	981	628	1.56	82秒	4,253	0.00	¥0
5 子育てしている、子育てに悩んでいる方へ 子供たちの未来をほぐす心 家庭学習	360	233	1.55	50秒	1,045	0.00	¥0
6 家庭学習を応援したい! 家庭の方へ 子育ての未来をほぐす心 家庭学習	325	125	2.63	28秒	1,119	0.00	¥0
7 関連記事 子供たちの未来をほぐす心 家庭学習	315	224	1.42	26秒	942	0.00	¥0
8 記事一覧 子供たちの未来をほぐす心 家庭学習	174	91	1.96	16秒	433	0.00	¥0
9 新しい記事が追加された! 子供たちの未来をほぐす心 家庭学習	34	30	1.33	10秒	124	0.00	¥0
10 関連記事 子供たちの未来をほぐす心 家庭学習	3	3	1.00	11秒	15	0.00	¥0

● 結果

● ページ別アクセス数

- 「家庭教育ってなんだろう?」ページが、最もページアクセス数が多く、サイトの入り口としての役割を果たしている。

ページ別アクセス数2

日付
2024年1月20日～2024年2月20日

自由形式 3

ページタイトル

表示回数

合計

7012

1 家庭教育ってなんだろう？|子供たちの未来をはぐくむ 家庭教育

1,683

2 家庭教育支援の活動をしたい地域の方へ・制度を広めたい自治体の方へ|子供たちの未来をはぐくむ 家庭教育

1,620

3 トップ|子供たちの未来をはぐくむ 家庭教育

1,550

4 家庭教育支援の活動をしたい地域の方へ・制度を広めたい自治体の方へ|子どもたちの未来をはぐくむ 家庭教育

981

5 子育てをしている、子育てに悩んでいるすべての方へ|子供たちの未来をはぐくむ 家庭教育

360

6 家庭教育を応援したい企業の方へ|子供たちの未来をはぐくむ 家庭教育

329

7 関連資料集|子供たちの未来をはぐくむ 家庭教育

319

8 児童虐待に関する取組|子供たちの未来をはぐくむ 家庭教育

124

9 新しいつながり合いのかたち|子供たちの未来をはぐくむ 家庭教育

34

10 関連資料集|子どもたちの未来をはぐくむ 家庭教育

3

カヌー 4 1月20日 - 2024年2月20日

ユーザーの環境の詳細: デバイスカテゴリ

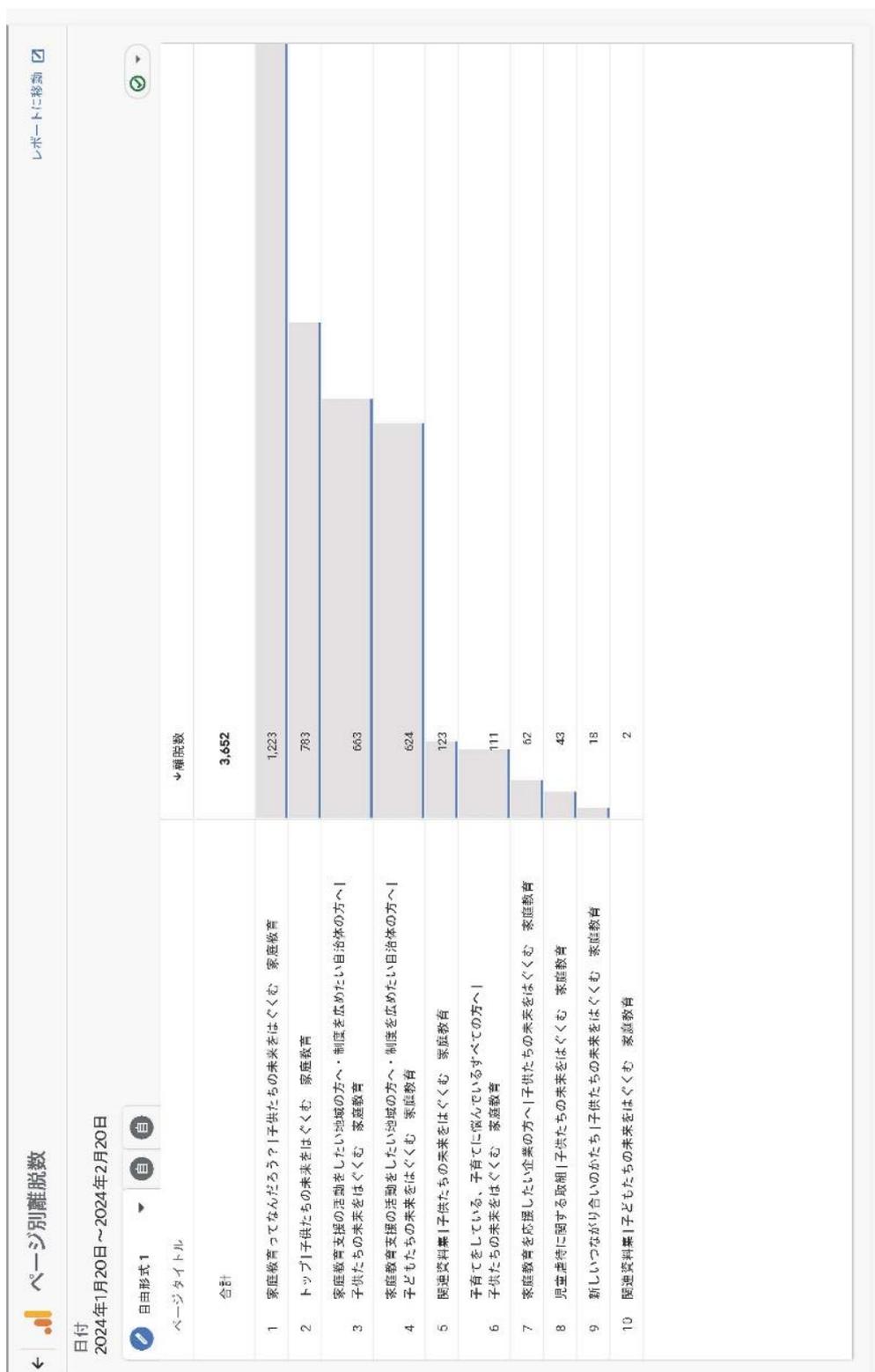


©2024 Google | アナリティクスホーム | 詳細情報 | プライバシーポリシー | フィードバックを送る

- デバイスカテゴリ
 - 対象ユーザーは、行政担当者以外にも、家庭教育支援チームにかかわる地域関係者・民間団体関係者など、モバイル端末ユーザーが多いと思われるにも関わらず、PC 端末の方がモバイル端末よりアクセス数が多かった。
 - また、ページ滞在時間（平均エンゲージメント時間）やクリック数（イベント数）について、PC 端末に比べて、モバイル端末の方が極端に低くなっており、モバイル端末対応ができていないが故の結果となっている。

- ページ別離脱数

- ページ別アクセス数としては、上記の通り、「家庭教育ってなんだろう?」ページが多かったが、同様にこのページが離脱率も多いという結果となった。
- このページ内に関連コンテンツリンクがないこと、写真やイラストがなく文章のみの構成となっており、読むことに負担が大きいことが、離脱率の高さの要因と思われる。



● ページ別直帰率



ユーザー獲得参照元

レポートに移動



- ユーザー獲得参考元
 - Organic Search (検索エンジンからの流入)、Direct (URL 直接入力やブックマーク登録)が多かった。Directが多い要因としては、自治体職員等、仕事でサイトを閲覧するために、ブックマーク登録をしているユーザーが多いことが考えられる。

- Referral(別サイトやメルマガ上でのリンクやバナー貼り付けによる流入)については、文部科学省ドメイン(mext.go.jp)以上に「schoolweb.ne.jp」からの流入が一番多いといった結果となった。学校のHP等で、本サイトのURLが紹介されている可能性がある。

- 検索ワード上位

- 検索ワードの上位結果としては「家庭教育」や「家庭教育支援チーム」が上位としてあがった。

検索キーワード上位一覧

上位のクエリ	クリック数	表示回数	CTR	掲載順位	上位のクエリ	クリック数	表示回数	CTR	掲載順位
家庭教育	188	775	24.26%	1.27	家庭教育で大切にしていること	7	45	15.56%	1.47
家庭教育支援チーム	112	278	40.29%	1.12	家庭教育 子育て 違い	6	36	16.67%	2.56
家庭教育とは	111	418	26.56%	1	家庭教育支援 文部科学省	6	28	21.43%	2.07
家庭教育支援	78	271	28.78%	1.04	家族と過ごす時間 統計	6	17	35.29%	1
子供たち 文部科学省	54	219	24.66%	1	家族で過ごす時間 統計	6	10	60%	1
主任児童委員 活動事例	35	80	43.75%	1	小学生睡眠時間 文部科学省	5	122	4.10%	6.56
メディアコントロール 小学校	30	188	15.96%	3.14	子供と過ごす時間 統計	5	83	6.02%	2.92
家庭教育 大切なこと	28	74	37.84%	1.53	親教育プログラム	5	26	19.23%	3.96
家庭教育とは 文部科学省	21	79	26.58%	2.63	家庭の教育力の低下 データ	5	16	31.25%	1
家庭教育支援チーム 一覧	19	32	59.38%	1	文部科学省 子供	4	51	7.84%	3.9
文部科学省 家庭教育	18	27	66.67%	1	早寝早起き朝ごはん 科学的根拠	4	41	9.76%	7
子供	17	20991	0.08%	17.9	家庭での教育	4	23	17.39%	1
メディアコントロール	16	770	2.08%	7.56	家庭教育支援事業	4	17	23.53%	3.35
早寝早起き朝ごはん 文部科学省	12	142	8.45%	5.16	子供の教育	3	282	1.06%	7.74
家庭教育支援とは	11	150	7.33%	3.77	家庭教育学級 いない	3	36	8.33%	12.28
バッチリズム体操 放送時間	11	82	13.41%	3	文部科学省 子ども	3	33	9.09%	3.03
家庭教育支援チームとは	11	43	25.58%	3.05	文部科学省 睡眠	3	25	12%	3.08
家庭教育の役割	10	41	24.39%	1.2	家庭教育とは	3	22	13.64%	1
文部科学省 家庭教育関連データ	10	17	58.82%	1	子供たちの未来	3	22	13.64%	4.86
家庭教育 文部科学省	10	16	62.50%	1	文部科学省 睡眠時間	3	16	18.75%	4.31
家庭教育学級とは 文部科学省	9	71	12.68%	5.24	子供 教育	2	284	0.70%	10.96
家庭環境 悪い 割合	9	29	31.03%	1	子どもたち	2	244	0.82%	3.61
家族 コミュニケーション不足 統計	8	80	10%	4.76	メディアコントロールとは	2	94	2.13%	8.39
家庭内教育	8	52	15.38%	2.85	家庭教育 具体例	2	47	4.26%	4.7
メディアコントロール 文部科学省	8	47	17.02%	6.38	メディアコントロール 中学校	2	42	4.76%	7.93
文部科学省 家庭学習	8	18	44.44%	4.28	家庭学校	2	39	5.13%	2.31
家族と過ごす時間 調査	8	12	66.67%	1	睡眠 学力 文部科学省	2	37	5.41%	3.59
早寝早起き朝ごはん で輝く君の未来	8	12	66.67%	1	家庭教育学級とは	2	37	5.41%	5.84
家庭	7	13828	0.05%	5.15	メディアコントロール 目標	2	34	5.88%	5.88

⑤ 課題・今後の対応方針提案

- ページ全体について

- モバイル端末への対応

- アクセス解析の結果によると、PC 端末の方がモバイル端末よりアクセス数が多く、ページ滞在時間(平均エンゲージメント時間)やクリック数(イベント数)について、PC 端末に比べて、モバイル端末の方が極端に低いという結果になった。

- ユーザーインタビューの中でも、民間団体より、モバイル対応ページを作ることが求められていたことから、モバイル対応ページを作成することが、さらなる閲覧数の増加につながると思われる。

- 「家庭教育ってなんだろう？」ページの内容工夫
 - アクセス解析によると、「家庭教育ってなんだろう？」のページが最も閲覧数が多く、本サイトの入口となっていたが、一方でページ離脱率も高かった。
 - 要因としては、文章のみで文字数が多いこと、他ページのリンクがなく別コンテンツへの移動につながらないことがあげられる。
 - 例えば、「家庭と地域や学校をつなぐ家庭教育支援チーム」、「家庭教育支援チーム一覧」など、閲覧数の多いページのリンクを張る、文章ではなく、イラストや概念図を追加する、といった対応により、サイト内回遊につながると考えられる。



- サイトの説明文の改善
 - アクセス解析を再委託した事業者より、サイトの説明文の改善に関する提案があった。
 - 現状、Google 等で検索した際に表示されるメタディスクリプション（ページタイトルの下部にあるサイトの説明文）について、全ページで同じ説明が使用されており、それがゆえに、検索エンジンのランキング低下につながったり、閲覧者がページの内容を正確に理解できなったりする可能性がある。
 - 個々のページに適した説明文を作成し、ユーザーに魅力的な情報を提供することで、検索エンジンのランキング向上や、クリック率の向上、ひいては、サイトへの訪問者数の増加につながるができると考えられる。

- 自治体向け・民間団体向けページについて

- 家庭教育支援チームや民間団体との連携に関する詳細説明
 - 「1. 自治体における家庭教育支援チーム登録の促進事例に関する調査」の中では、民間団体より、「登録時に家庭教育支援チーム登録のメリットがわかりづらかった」といった声があった。
 - また、ユーザビリティテストにおいて、特に民間団体から家庭教育支援チームに関する説明や民間団体との連携に関する説明を入れ込み、行政（特に基礎自治体）の制度理解につなげてほしいといった意見があった。

- 今回の更改においては、家庭教育支援チームに関する概念図の挿入までを行ったが、さらなる家庭教育支援チームの登録数や質の向上のためには、家庭教育支援チームについて、自治体・民間団体双方にとってのチーム組成のメリットや制度説明を丁寧に説明する箇所を盛り込んでいくことが必要だと思われる。

- 保護者向けページについて

- 支援に繋がりがやすいページの工夫

- ユーザビリティテストにおいて、自治体・民間団体の双方から、困っている保護者がサイトを閲覧し、支援に繋がっていくように、文言の工夫を行った方がいいのではないか、といった意見があがった。
 - それら意見を踏まえ、具体的には以下のような工夫が必要になってくるだろう。
 - 写真素材の工夫: 幸せそうな家族の写真を入れ込みすぎると、自分の現状と比較して落ち込んでしまう保護者もいるのでは、といった意見があがった。サムネイルについてはイラストとして、困っている保護者でも抵抗感のない素材に変更していくことが求められる。
 - 文字数の減少: 子育てで疲れているときに、文字ばかりのサイトは読みづらいのでは、といった意見があがった。保護者向けページでは文字を減らし、イラストや図で説明していくことも一案である。

- 事例紹介ページについて

- 検索機能の付与やわかりやすい取組事例の紹介

- ユーザビリティテストにおいて、特に民間団体から、各民間団体の取組事例を読むにあたり、「pdfで読みづらい」「地域や対象者といった検索機能が欲しい」「取組の写真などがあるとよい」といった意見があがった。
 - 本事業では、活動内容がわかりやすく作成されている被表彰団体の事例紹介のリンクを添付することで改善を図ったが、さらなる事例の参照しやすさを鑑みると、検索機能の付与やわかりやすい記事形式等での取組事例の紹介が必要となると思われる。

第3章 事業の評価

1. 自治体における家庭教育支援チーム登録の促進事例に関する調査

評価対象	評価指標	目標	結果
① 家庭教育支援チーム登録にあたり、登録促進支援策をとった自治体	ヒアリング先数	3 自治体	4 自治体
② 自治体の登録促進支援策によって家庭教育支援チームの登録をした民間団体	ヒアリング先数	6 団体	5 団体
③ 家庭教育支援登録について、登録にメリットを感じて、登録を進めた民間団体	ヒアリング先数	2 団体	2 団体

「①家庭教育支援チーム登録にあたり、登録促進支援策をとった自治体」について、都道府県担当者から基礎自治体担当者をご紹介いただいたため、ヒアリング団体数を増加させた。そのため、「②自治体の登録促進支援策によって家庭教育支援チームの登録をした民間団体」について、ヒアリング数を1団体減らすこととなったが、全ヒアリング総計数は目標を達成した。

2. 家庭教育支援ポータルサイトの更改

評価対象	評価指標	目標	結果
① ポータルサイトの更改	更改完了有無	完了	完了
② ポータルサイトの評価	満足度評価	ユーザビリティテストを踏まえた更改後の満足度評価において、 <u>7割以上</u> が「このポータルサイトは、自治体と民間団体との連携に意義のあるものと思う」と回答	達成 (78.6%が「このポータルサイトは、自治体と民間団体との連携に意義のあるものと思う」と回答)

ポータルサイトについては、更改を完了することができた。またサイトの評価についても、ユーザビリティテストを行った民間団体・自治体のうち、78.6%が「このポータルサイトは、自治体と民間団体との連携に意義のあるものと思う」と回答し、目標値を達成することができた。

第4章 総括

本章では、今後の「家庭教育支援」「家庭教育支援チーム」の取組をさらに促進していくために、検討を要すべき事項について提言し、本調査の総括としたい。

1. 「家庭教育支援チーム」の登録制度広報について

1) 基礎自治体向け広報について

ヒアリング調査の中で、課題として多く挙げた意見が基礎自治体への広報である。

第2章事業報告 1. 自治体における家庭教育支援チーム登録の促進事例に関する調査 3) 調査結果・分析②アプローチの工夫より抜粋

- ・ 「家庭教育支援チームに登録しても、基礎自治体の担当者が、チーム登録制度について知らず、説明に時間がかかった。基礎自治体への広報を広げてほしい。」(民間団体からの意見)
- ・ 「文科省から表彰を受けたが、基礎自治体からは何も音沙汰ない。基礎自治体はチームをどのように思っていて、どう活用すればよいのか知らないのではないか。」(民間団体からの意見)
- ・ 「家庭教育支援チームとはなんなのかという説明がもっとほしい。平成30年に発出された手引きは見ているが、分量が多く基礎自治体は見ないだろう。A41枚くらいでわかりやすく記載してあると良いのでは、と感じている。手引き以前に、家庭教育支援とは?という簡単な説明資料があると良い。」(都道府県からの意見)

第2章事業報告 2. 家庭教育支援ポータルサイトの更改 4) 継続的な改善に向けた検討 ②ユーザビリティテストの結果から抜粋

- ・ 「チーム制度についても都道府県からの案内をいただいたことはなく、初めて知った。」(基礎自治体からの意見)

現状、文部科学省からは、主に都道府県経由で基礎自治体に向けて家庭教育支援、家庭教育支援チーム登録制度に関する広報を実施しているが、家庭教育支援の事業やチーム制度の重要性、またその中でも官民連携が必要となっていく理由について、さらに重点的に説明していく必要があるだろう。本事業内で調査を行ったチーム登録促進事例も活用しつつ、その事例や制度説明について実施できる機会があるとよいと思われる。

① 家庭教育支援チームポータルサイト内での発信

今回更改を行った家庭教育支援チームのポータルサイトのユーザビリティテストでは、「基礎自治体向けのチーム制度の登録説明を増やしてほしい」といった民間団体からの意見があった。現状、チーム制度についての簡易な説明のみとなっているところ、地域内でチームを増やしていくことによるメリットやその中で官民連携を進めるメリット等を丁寧に発信していく必要があるだろう。

② 基礎自治体向け事例紹介のセミナー開催

現状実施している都道府県経由での広報と並行して、基礎自治体向けに全国の家庭教育支援チームの事例紹介セミナー等を国が開催し、都道府県の取組事例を知るだけではなく伝わりやすいような全国的な取組事例や、その中における工夫点を説明していくこともできるとよいと思われる。また基礎自治体が抱える制度への疑問なども多いと思われるため、国の担当者が回答するような質疑応答の機会も設け、基礎自治体側の理解が深まるような設計も必要となる。

2) 民間団体向け広報について

ヒアリングの中では、登録後に登録メリットを感じている団体も多かったが、登録まで「家庭教育支援チーム」を知らなかった民間団体や、登録後もメリットがよくわかっていないといった民間団体も多くあった。都道府県・基礎自治体からの広報だけでなく、国が全国の民間団体に直接的に家庭教育支援チーム登録制度について広報していくことも1つの施策となりうる。

① 家庭教育支援チームポータルサイト内での発信

まずは、今回更改を行った家庭教育支援チームのポータルサイトにおける民間団体に向けた発信が有効といえる。ユーザビリティテストの中でも、民間団体からポータルサイト内に「ロゴマークを使えるなど、家庭教育支援チームに登録することによるメリットに関する説明を、もっと入れた方がいいのではないか」といった意見もあった。ポータルサイト内において、チーム登録のメリットの説明や、官民連携の方法について、説明を厚くしていく必要がある。

② 民間団体が関心を寄せるようなセミナー開催

国からの直接広報の手段として、家庭教育支援制度に関するセミナーを民間団体向けに開催していくことも一案である。セミナー内にて、チームの取組事例や家庭教育支援チームの登録メリットを国から説明する機会を持つことで、今まで家庭教育支援チームについて知らなかった民間団体が新たに登録していくことが期待される。

2. 行政連携・チーム間連携について

家庭教育支援チーム登録の民間側のメリットとして、ロゴマークの活用等による信頼性・認知度の向上以外に、行政との連携、チーム間連携に関するニーズも民間団体からは挙げられた。

第2章事業報告 1. 自治体における家庭教育支援チーム登録の促進事例に関する調査 3) 調査結果・分析 ①メリット訴求の工夫より抜粋

- ・ 「チーム登録をすると、行政との連携が進み、さらに団体の活動が広がっていくことを実感している。一方で、その点の理解が進んでいない団体も地域の中には多くいる印象があるので、行政連携につながることをもっとアピールしてもいいのではないかな。」

第2章事業報告 1. 自治体における家庭教育支援チーム登録の促進事例に関する調査 3) 調査結果・分析 ②アプローチの工夫より抜粋

- ・ 「自分の地域外の活動については、知る機会がほとんどない。オンラインでもいいので、広域地域の家庭教育支援チームとの事例発表・活動紹介などの機会があるとよい。」
- ・ 「登録はしたが、家庭教育支援チームの登録メリットがわからないところもある。他の団体がどのようにチーム登録制度を活用されているのか、チーム登録によって事業が広がった、といったお話が聞けるとよい。」

ヒアリング先自治体の中には、その点を工夫した施策を打ち出していた自治体もあったが、連携機会の場づくりについては、課題を抱えている自治体・民間団体も見られた。

第2章事業報告 1.自治体における家庭教育支援チーム登録の促進事例に関する調査 3)調査結果・分析②アプローチの工夫より抜粋

- ・ 「県がチーム交流会を開催くださり、刺激もあってよかったが、表面的な交流のみで終わってしまったところがあった。ボランティアの集め方や活動資金集めなどといった踏み込んだノウハウの共有がある場の方が、継続的に参加する団体は増えていくと思う。」

第2章事業報告 2.家庭教育支援ポータルサイトの更改 4)継続的な改善に向けた検討 ②ユーザビリティテストの結果から抜粋

- ・ 「家庭教育支援をどの部署が担当するかで庁内協議中であり、チーム制度についても都道府県からの案内をいただいたことはなく、初めて知った。民間団体と連携は進めたいと思っているが、どのように議論の仕方を進めるかで迷っているところ。」(チーム登録をしていない自治体)

そこで以下のような取組の打ち出しが重要になってくると思われる。

① 行政と民間団体の連携を進めるための実証やマニュアルの作成

団体PRや情報提供などを行う際の行政の広報支援、公民館など公共施設の使用料減免措置支援等、行政と連携ができることで、活動の幅が広がると感じる民間団体は多くあるため、自治体としてはそのような連携の選択肢を用意することが必要になってくる。

そのためには、前提として、民間団体が求めている連携のあり方は何か、ということを手際よく聞き取り、民間団体と対話の機会を設定し、民間団体のニーズや困りごとに対して、行政としてどのような支援を行うことができるのか、検討していくことが求められる。

一方で、その議論の進行をどのように行えばいいのかわからず、戸惑っている自治体もヒアリングの中では、多く見られた。他分野での官民連携事例なども踏まえつつ、「民間団体の声を聞きつつ、効果的な官民連携につなげていく方法」について、マニュアル等を整備する必要があるだろう。その整備にあたっては、官民連携を目指す自治体を舞台にした実証的検証も一案と思われる。

② チーム間で情報交換ができるような全国的な連携・ネットワークづくり

地域内の家庭教育支援チーム同士の交流の機会があることはメリットと感じるという意見が民間団体側から多くあった。

一方で、ただ集まる場を設定するだけでは不十分と感じるという声もあり、民間団体が求めている情報(活動内容の工夫・充実や、人材確保といった、団体運営のポイント等)を家庭教育支援チーム同士で交換できる機会を作るなど、効果的な連携・ネットワークづくりが求められる。

自分の地域の団体の取組しか知らず、他地域の団体の取組についても知りたいという民間団体も多かったことから、民間団体同士が集まり、ネットワークを作ることで全国的なフォーラム等の機会提供は重要になると思われる。